

ハタチ 20歳の原点

毎回、福岡女子大学に縁のある方々を紹介します。

ハタチ
あの人は20歳の頃、どんなことを考え、
どんなことに迷い、どんな選択をしてきたのか——
若き日の LIFE STORY



姫野 尚行

HIMENO NAOYUKI

公立大学法人 福岡女子大学
図書館司書

大分県大分市出身
2005年九州産業大学芸術学部
写真学科卒業
2014年から福岡女子大学図書
館に勤務

●20歳の頃 響いた言葉

“頭を使わなければさびつきます。人間も磨かなければ曇ります。若い頃美男だった人が三十になるとつうの男になり、四十すぎるとみられなくなるのは、みんな自分のせい。時間のせいではありません。本来ならば、人間は老人になればなるほど美しくなっていくはず。人生の達人、白洲正子さんは「美しくなるにつれて若くなる」という本に、こう綴っています。

20歳の頃にこんな素敵な言葉にたくさん触れ、多くの刺激を受けました。皆さんも是非読んでみてください。また、図書館では企画展示として、本学教職員が「学生時代に読んだ本」を紹介しています。おすすめのぜひ図書館へお越しください。

友人にもたらされた 人生の転機

「自分でいいのかなあ。」こういうのって、エライ人やリッパな方達が、生き方のヒントや含蓄あるエピソードを語るものでしょ。僕は、何も成し遂げてないので、相応しくないんじゃないかと考えて断ろうと思いましたが、こんな人生もあるんだと思ってもらえたらいいかもと思い直し、受けてみることにしました。なので、期待せず読んでもらえると有難いです。

さて、時計の針をぐるぐる巻き戻して20歳の頃。街ではS.M.A.Pの「世界の二つだけの花」が流れ、東京ではヒルズ族が持て囃されていました。僕は、大学で写真を学ぶ学生で、笑顔がチャームポイントなガールフレンドを撮影するのに夢中でした、ということもなく、恋愛とは無縁な（シクシク）学生生活をおくる漢垂れ小僧でした。

まだ世の中にはスマホなんてなくて、情報収集はもっぱら本屋と図書館でした。本屋ではいろいろなジャンルの専門誌を見ても最新の動向を追いかける、気になる展覧会があれば海外へも出かけました。図書館では絶版の作品集を見るなど、とにかく自由気ままに過ごしていました。

当時は個展を開いてみたいという思いと自分には無理だという思いが交錯していました。今思えばすでにクリエイティブな活動のスタートさせ、雑誌に名前が掲載されていたクラスメイトに焦りを感じていたんだと思います。SNSやスマホなんてなかった時代、発表できる場所は限られていました。そんな時、友人からホームページを作って作品を発表しようよと誘われ、二つ返事でOKしました。インターネットで全世界に発信された自分の作品を見たときは興奮しましたが、徐々に発表されたことは時期尚早だったのではないかという思いが募り始めました。誰かから、けちよんけちよんに言われたとかじゃないんです。むしろ面白いつて褒めてくれる方が多かったけれど、作品は作り手の気持ちが宿るものだから、自分の至らなさが目立っているよう

で恥ずかしくなり、掲載を止めてしまいました。この葛藤は大きくて今でも抱えたまま、情けないですが解決できていません。あの時代を振り返ってみて今につながっていることは、図書館でアルバイトをしたことです。これも友人が紹介してくれました。よく図書館へ通っていたので誘ってくれたのだと思いますが、勤務中に居眠りするような不真面目なアルバイト生でした。それでも当時から図書館がもっている大らかな雰囲気が好きでした。今思うと、一番続いたアルバイトでもあり、性にも合うていたのだと思います。

当時を回想していて気付きました！人生の転機は友人がもたらしていたことを！実は、福岡女子大学の図書館で働く縁をくれたのも友人なのです。友とは私にとって人生の灯火なのかもしれません。もし、最後まで読んでくださった方がいらついたら、ありがとうございました。



建学の精神は「次代の女性リーダーを育成」 FWU SPIRIT

福岡女子大学学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)第1項に示されるFWU SPIRIT。

FWU SPIRITとは
主体的な自己を確立し、自ら率先して
新しい社会作りに挑戦する使命感と情熱、行動力をもつこと。

そんなSPIRITをもつリーダーを育てる。

FWU SPIRITを灯すための教育。

その思いや仕掛けをご紹介します。



2019年度 イベントカレンダー (4月～7月)

	1日(月) ● 国際学友寮「なでしこ」入寮式
	3日(水) ● 入学式[学部(第70回)・大学院(第27回)]
	4日(木) ● 新入生・上級生オリエンテーション
4月	5日(金) ● 授業開始 [学部:第1Q・大学院:前期] 第1Q:4月5日～6月6日 前期:4月5日～8月2日
	10日(水) ● 海外語学研修説明会
	11日(木) ● 春季海外語学文化研修報告会
	21日(日) ● 福岡女子大学開学記念式典 第8回 ホームカミングデー
	5月中旬 ● イングリッシュ・ビレッジ
	5月中旬～ ● 教育実習
5月	16日(木) ● 留学説明会及び個別相談会
	18日(土) ● 体育祭
	31日(金) ● 定期試験 [学部:第1Q] ～ 6月6日(木)
6月	7日(金) ● 授業開始 [学部:第2Q] 学生大会
	28日(金) ● 高校教員向け大学説明会
	6日(土) ● 大学院入試(自己推薦選抜 [人間環境科学研究科・博士前期])
7月	17日(水) ● WJC自主研究発表会
	21日(日) ● 学部留学生入試(B日程)
	26日(金) ● 定期試験 [学部:第2Q・大学院:前期] ～ 8月1日(木)



公立大学法人
福岡女子大学広報
FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY
No.106 Spring 2019

CONTENTS

02-06 特集 建学の精神は「次代の女性リーダーを育成」
FWU SPIRIT

03-04 学長インタビュー
建学の精神から読み解くFWU SPIRIT

05-06 「体験」で培われるリーダーシップ
～FWU SPIRIT

07 2018 卒業生、修了生からのメッセージ

08-14 FWU NEWS

08 Events

- ・キャンパスイルミネーション2018 点灯式&コンサート
- ・福岡女子大学の略称発表「福女大」

09 International

- ・日本伝統文化体験 神田 紅氏講演会
- ・マヒドン大学(タイ)環境資源学部との学術連携
- ・CASEUFワークショップ
Migration, Transnational Networking and Engagement
- ・派遣交換留学生の出発式

10-11 Outreach

- ・平成30年度 女性トップリーダー育成研修
- ・ノーベル賞受賞者 野依 良治先生講演会
- ・福岡女子大学 生涯学習カレッジ 2018
- ・YOUTH FESTA HIGASHI 2018 ワークショップ
- ・一日東警察署長就任
- ・しょうふ学園 福森 伸氏講演会
- ・アートマネジメント講座 受講生企画
- ・社会人学び直しプログラム成果発表

12 Academic life

- ・躍動する現代作家賞2018受賞
- ・日本語教育能力検定試験合格
- ・インスタントラーメンオリジナル料理コンテスト入賞
- ・福津市 郷育カレッジ
- ・体験学習プログラム合同報告会

13-14 INFORMATION

- ・福岡女子大学 100周年記念事業基金
- ・福岡女子大学 人事消息
- ・福岡女子大学 2019年度 公開講座

ツナグ〜リレーエッセイ vol.2
20歳の原点 姫野 尚行さん



「トップリーダー」と「リーダー」の違いはどこにあるのでしょうか。
梶山 トップリーダーには志と感性が不可欠です。リーダーではこれが

志や感性は自ら
体得していくもの

梶山 「トップリーダー」と「リーダー」の違いはどこにあるのでしょうか。トップリーダーには志と感性が不可欠です。リーダーではこれが

十分には備わっていません。リーダーがトップリーダーを目指そうとすれば、さまざまな課題にぶつかるでしょう。志や感性は、それを克服する過程で養われます。

梶山 志や感性は、自分で体得していくもので、人に教えてもらうものではないです。つまり、意識改革は教育できないのです。私たちはプログラムを用意するだけ。何を学ぶかは学生の皆さんが決めることです。

梶山 志や感性は、自分で体得していき、人に教えるというものは、意識改革は教育できないのです。私たちはプログラムを用意するだけ。何を学ぶかは学生の皆さんが決めることです。

梶山 志や感性は、自分で体得していき、人に教えるというものは、意識改革は教育できないのです。私たちはプログラムを用意するだけ。何を学ぶかは学生の皆さんが決めることです。

梶山 志や感性は、自分で体得していき、人に教えるというものは、意識改革は教育できないのです。私たちはプログラムを用意するだけ。何を学ぶかは学生の皆さんが決めることです。

梶山 志や感性は、自分で体得していき、人に教えるというものは、意識改革は教育できないのです。私たちはプログラムを用意するだけ。何を学ぶかは学生の皆さんが決めることです。

梶山 志や感性は、自分で体得していき、人に教えるというものは、意識改革は教育できないのです。私たちはプログラムを用意するだけ。何を学ぶかは学生の皆さんが決めることです。



UIマニュアル



わってきましたが、優れた女性リーダーを育むには、共学より女子大のほうが環境的に向いているように思います。ぜひ、本学のプログラムを活用し、創造性のある自立した女性になってください。また、本学の学生には、建学の精神を記した「UIマニュアル」を配布しています。名刺サイズで持ち運びしやすいので、常に携帯し、迷うことがあれば、建学の精神に立ち戻って本学で学ぶ意義を考えてみてください。

特集

建学の精神は「次代の女性リーダーを育成」

FWU SPIRIT

学長インタビュー

建学の精神 「次代の女性リーダーを育成」 から読み解く FWU SPIRIT

創立以来、数多くのリーダーたちを輩出した本学において次代の女性リーダーを育むために必要な教育とは何か梶山学長に聞きました。

福岡女子大学 理事長・学長

梶山 千里

感性を磨き
人間力を育む

精神文化の醸成こそが 次代のリーダーを育む

梶山 20年程前まで、多くの大学には教養部が置かれ、その中で人間性や感性を磨いていました。しかし、残念なことにそれが廃止され、現在は専門の知識の修得に偏り、人間力を育むための教育が疎かになっている学生が多い。「感性」が磨かれていないのです。

梶山 わかりやすく言えば、人の心を傷つけない、人の心を大切にすることといった「心の教育」のことです。これには、社会生活に適応するための

「感謝」や「しつけ」も含まれます。感性を身に付けていなければ、リーダーにはなれません。

私は、感性を中心とした精神文化の醸成こそが、次代の女性リーダーを育むと思っています。それを具現化するために、本学では「感性」の授業をスタートしました。

梶山 私はリーダーを、「リーダー」と「トップリーダー」に分けて考えています。建物に例えると、1階がリーダーで2階がトップリーダー。その間にあるのが「感性」という階段です。リーダーは、ファシリテーション力やチームビルディング力、語学力などを導くための道具を修得している人で、リーダーがトップリーダーになるには、さらに創造力を育む訓練が必要です。

「体験」で培われるリーダーシップ
～FWU SPIRIT

「こうだったらいいな」…想像・創造の積み重ねが
リーダーシップの発揮に

「次代のリーダー」とは、きたる社会をつくりだす人。でも、それは特別な誰かではありません。「社会」は、広くとらえどころのないものに感じますが、「今・ここ」もまた社会であり、それにかかわっていくことが、より広い社会を想像・創造することにつながっていきます。それが、リーダーシップを発揮する、ということなんです。

誰でも、リーダーシップを発揮することができます。自分がいる場所

で、自分なりに他者に働きかけることで、「リーダー」としての資質を育むことができます。学長インタビューの中にある、人間力、志、感性、創造性もそのプロセスで磨かれていきます。誰でも、いや、誰もが、リーダーシップを発揮する経験を積み重ね、社会に巣立っていきけるよう、福岡女子大学では「体験」を通した学びを大切にしています。

学生は、既に社会の中に生きていて、社会のあり方を日々つくり出している存在です。やってみることを通して自分自身や他者の強み・役割を発見したり、「社会」がどのように動いているのか、「社会」をどのようにつくり出していくのかについての

理解が深まります。学生だからこそこの視点で社会を見つめ、「こうだったらいいな」を想像・創造する一歩を、他者と協力しながら積み重ねる。それは、そこで生きる自分自身について考えたり、他者が持つ価値観に触れたり、多様な価値観が存在する中で何かをやり遂げていくことのトレーニングになります。そしてそのようなトレーニングを積み重ねることが、卒業後の生き方や働き方にもつながっていくのです。

福岡女子大学では、授業（正課）：つまり、単位が付与されるカリキュラムの一環として）でも、授業外（準正課）：大学での学びをより充実したものとするために準備された諸活動）でも、「体験」を重視しています。

正課の中にも、学ぶ目的に従って、座学中心のものと「体験」を積極的に取り入れたものがあります。「体験」の内容は、教員だけではなく実務者等ゲストとの対話、学外に飛び出し現場を感じながら問いを立てること、国内外の地域住民、企業や各種団体・組織のみなさんとのコラボやプロジェクトを行うこと、また期間も、数日／通年…と多種多様です。

身近な「社会」である大学コミュニティにおいて、
多様な他者と交流し、課題を発見・解決

「体験」を通した学びをさらに加速するのが、「準正課」の活動です。準正課の中でも、寮活動や学生自治会が、学生全員がかかわるものとなっています。そこでは、身近な「社会」である大学コミュニティにおいて、他者と交流しながら、コミュニティの課題を発見・解決していきます。そんな挑戦の中で、そのコミュニティに生きる自分自身、他者や「社会」についての関心や理解が育っていきます。

また、それらの他にも、任意で、学生が、感じ、考え、問い、動いていくための諸活動の機会が、ふんだんに用

意されています。留学生との交流、大学の広報、外国語修得、地域活動、教職員から構成される委員会での活動：自分が得意とする分野はもちろんのこと、初めてのことに、苦手意識をもつことにも挑戦していく場です。うまくやるのが目的ではなく、やってみること。「失敗」ではなく「未成功」と捉え、自分なりの次の一歩を踏み出し続けてみることに。同じように、「やってみる」を試す他者と共に、時にはぶつかりながらも、進んでいくこと。そんな挑戦、そんな体験を、福岡女子大学は全力で応援します。

大学内外での体験でつけた
行動力がキャリアで生きる

公益財団法人 スペシャルオリンピックス日本勤務
新谷 舞子さん



在学2年目に、体験学習科目に出逢いました。初めて受講したプログラムの中で、ビジネスマナーを知らないのはもちろん、「なぜ？」と問う力の無さ、誰かがやってくれて当たり前とどこかで思っている自分がいたことに気づかされました。そんな自分を変えるため、卒業するまでの3年間、合計7つの体験学習プログラムを受講し学内外で活動しました。

体験学習の中で出会う方々の、仕事への愛着を話す姿や現状に満足せずよりよくしようとする姿から、自分の所属する福女大について考えるようになりました。入学当初は、他大学に比べると小規模で大学内に面白いことがない…と思っていましたが、「面白くないなら、面白くなるように、自分自身が行動することが大切なんだ!」と気づき、体験学習での学びを活かすべく、在学3年目に導入された初年次全寮制で、RA (Resident Assistant/現なでしこメイト) の活動に挑戦しました。寮内でのイベントを企画・開催したり、「こうすれば寮生活はもっと良くなるのではないか」と思ったことは教職員に相談に行ったり。大学内外で、相手を思いやりながら仕事に取り組む姿勢や、辛い時も諦めずに努力し続ける強い心、社会に出てから求められる行動力を鍛えることができました。

大学での学びを活かして海外で働いてみたいという思いから、卒業後は、青年海外協力隊に挑戦しました。フィリピンの小さなNGOで、障がいのある人たちとその家族のために活動する2年間。挫折しそうな時もありましたが、踏ん張れたのは体験学習やRAでの学びがあったからです。その協力隊での経験も活かしながら日本社会で働きたいと思い、帰国後は、知的障がいのある人たちがスポーツに挑戦するための支援を行っている国際スポーツ団体・公益財団法人スペシャルオリンピックス日本に就職しました。今も大学時代に学んだ仕事に取り組む姿勢を毎日意識しながら、スペシャルオリンピックスの活動を国内で広めるため日々奮闘しています。

2013年文学部(旧)英文学科を卒業後、北九州市の介護サービス会社に就職。その後、青年海外協力隊・コミュニティ開発隊員として、2年間、フィリピンの障がい当事者団体(NGO)で活動。資金調達事業の支援や、特別支援学校に通えない障がい児のための学習センターの運営支援を行う。帰国後、知的障がい者のスポーツへの挑戦支援を行う公益財団法人スペシャルオリンピックス日本(SON)に就職。育休中は職場初となる在宅ワークを始め、現在は時短勤務で仕事と育児を両立。

全員が参加 ◎自治会(自治会内各委員会)
◎寮における活動(寮チーム活動等)

任意で参加 ◎JD-Mates(留学生のケア)
◎広報サポーター(オープンキャンパス企画運営)
◎なでしこメイト(寮生サポート)
◎Language Caféスタッフ(言語・文化の学びの場づくり)
◎スチューデント・アシスタント(授業の補助)
◎学生委員(教職員の委員会への学生としての参画)
◎地域ボランティア 等

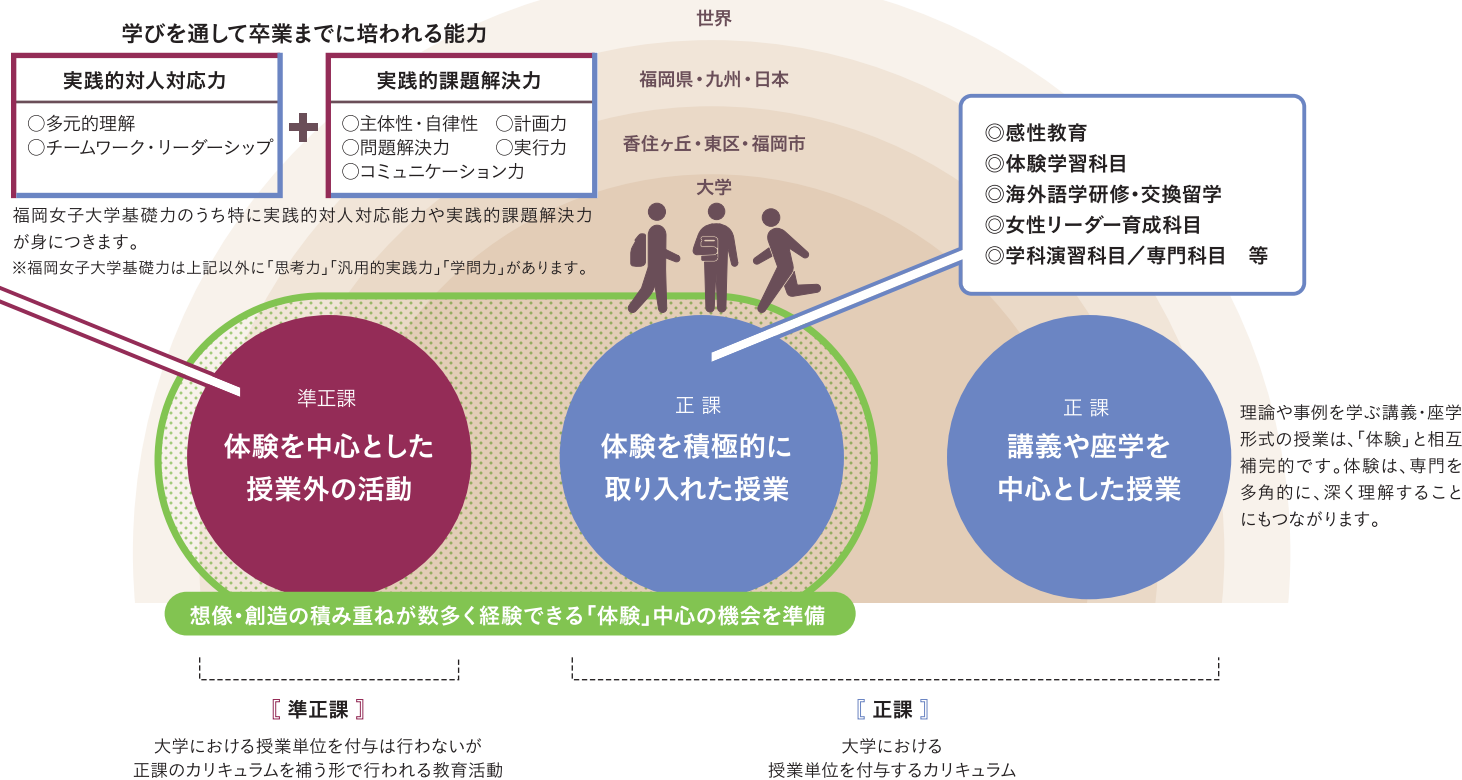
目的を他者と共有し、企画やタスクを動かす

- 多様な価値観に触れ、自身の考えの幅を広げる
- 意見の相違がある時に粘り強く協議する
- 見通しと計画を立ててやり遂げる
- 課題を発見し、それを改善する

等の実践的対人対応能力や実践的課題解決力

体験を通して想像・創造することを繰り返すことで
『実践的対人対応力』『実践的課題解決力』が身につき、
リーダーシップを発揮のできる女性へ!

社会の中で生き、学び、同時に社会をつくりだしている学生



Events

2018.11.23

「キャンパスイルミネーション2018 点灯式&コンサート」を開催

本学では、キャンパスのオープン化を推進し、地域の方々とより一層の交流を図ることを目的に、様々なイベントを開催しています。その一環として、2017年度からはキャンパスイルミネーションを実施しており、初日である11/23(金・祝)に「点灯式&コンサート」を開催しました。

本学客員教授の松下美紀先生の監修のもと、例年好評いただいているイルミネーションに加え、今年は学生制作「人が集うスノードーム」が登場しました。

コンサートでは、地域の方々と結成された「ホワイトリリーズ」によるハンドベルの演奏、ESSサークルのメンバーによる「ym-yms from ESS」のアカベラ、合唱サークルによるクリスマススペシャルメドレー、荒木優花さん(国際教養学科2年)の独唱、福岡女子大学フィルハーモニーオーケストラの演奏があり、会場は華やいだ雰囲気に包まれました。また、図書館棟入口では同窓生有志による焼き菓子や手作り小物の販売が行われ、にぎわいを見せていました。当日は、寒い中たくさんの方々に来場いただき、誠にありがとうございました。

本学ではこれからも福岡女子大学をより身近に感じていただけるイベントを企画しますので、ぜひお越しください。



◀ 人が集うスノードーム

Campus illuminations

Mini concert



ホワイトリリーズ



ym-yms from ESS



合唱サークル



荒木優花さん



福岡女子大学フィルハーモニーオーケストラ



▲ 同窓生有志による焼き菓子や手作り小物の販売



▲ 同窓会と学生によるクッキーと袋のプレゼント

2018.11.3

福岡女子大学の略称発表

福岡女子大学は、地域の皆様をはじめ在学生、同窓生、教職員から「女子大」「福女」など様々な略称で呼ばれてきましたが、2023年の創立100周年を見据え、より多くの皆様に大学を知っていただきたいという思いから、大学として統一的に用いる略称を策定することにしました。関係の皆様アンケートを行うなどして検討を重ねた結果、「福女大(ふくじょだい)」を本学の略称とすることが決まり、11月3日の「かすみ祭」ステージでお披露目を行いました。

「福女大(ふくじょだい)」には、「福」=福岡、「女」=次代の女性リーダー育成という建学の精神、「大」=高等教育機関としての歴史・伝統に対するプライドの意味が込められ、海外で通称として既に定着しているFWUとも符号しています(福=Fukuoka, 女=Women's, 大=University)。

今後、大学として「福岡女子大学」を省略する場合には「福女大」を使い、徐々に「福女大」という略称が浸透することを目指していきます。



▲ かすみ祭での略称発表／「福女大」の書は、食・健康学科 4年 梅田あゆみさん作

実りある大学生活になりますように

国際教養学科
内田 杏奈さん

私は4年間を通して「社会人として社会に出る」ためのステップを着実に踏むことができた実感しています。

ゼミでは自分の興味のあることを多くの学びの中から導き、アルバイトでは自分の長所や強みとなる能力を身に付け、就職活動ではそれらを「自分らしさ」として取り入れながら、社会人として自分らしく働く姿を想像できる会社を見つけることができました。

高校時代までの限られた空間から自分次第でいくらでも外へ外へと飛び出し、挑戦することができるのが大学での4年間です。

皆さんの大学生活が実りあるものとなることをこれからも応援しています。

4年間を振り返って

この4年間は非常に密度の濃い期間でした。学ぶ内容は大変興味深く、刺激的な毎日でしたが、課題やテストに追われて辛い日々もありました。しかし、仲間がいたから協力し合い、乗り越えることができたと思います。また海外研修に挑戦し、自分自身の中に広い視野を得ることができたことも意義深い経験でした。振り返れば一つひとつの出来事が大切な思い出です。このような充実した大学生活を送ることができたのは、4年間支えてくださった教職員の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

食・健康学科
近見 聖さん

人生において大切なことを学べた4年間

環境科学科
柏田 佳香さん

私は大学生活を通して「経験が自分を形作る」ということを学びました。

1年次の寮生活、マンドリンクラブの部長、韓国との共同研究など様々なことを経験し、その一つひとつの経験から導かれた学びが私という存在を形成していると感じています。成功したことだけでなく失敗や後悔さえも、全て将来に繋げられると信じています。これから大学で学んだことや多くの経験から得られたことを活かしながら、様々なことに挑戦していきたいと思います。

最後になりましたが、素晴らしい大学生活を送れたのは支えてくれた家族、友人、そして教職員の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

2018
卒業生、修了生からの
メッセージ

福女大生の誇りをもって

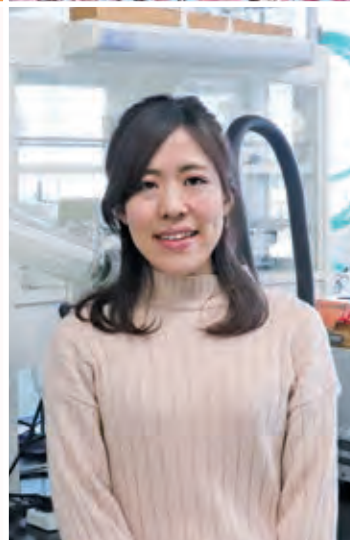
この大学院生活は、研究に没頭した2年になりました。修了にあたって、初めて「茶話会」に参加しました。先生を含め9人、みんなで修士論文のことや社会人になる憧れと悩み、就職活動など談笑しました。一緒に勉強した学友の論文はどれも感心するものばかりでしたし、卒業前にこれから社会に出る私たちの励みとなる貴重な時間を過ごすことができました。卒業しても、福女大生の一員として、社会人として、自信を持って頑張ります。

大学院 人文社会科学部
陳 珍さん

「学ぶ」ことの大切さ

私は本学の学部を卒業し、理科の教員として働いていました。「教える」ことを仕事としながら、自分自身「もっと学びたい」という気持ちが大きくなり就職してから3年目、仕事をセーブしながら大学院に通うという二足の草鞋を履く生活を始めました。

専攻領域はもちろん、専攻領域外の講義も受講できるため、この2年間では本当に幅広い内容を学ぶことができました。支えて頂いた多くの方々に、この場を借りて感謝申し上げます。

大学院 人間環境科学研究科
田中 咲季さん

Outreach

2018.11-2019.1

平成30年度 女性トップリーダー育成研修が終了

平成28年度より女性管理職や将来の女性幹部候補者を対象とした女性トップリーダー育成研修を実施しており、今年度は20名の方が受講されました。

第1回目は、ハイアットリージェンシー福岡において、2泊3日の宿泊型研修を行いました。産学官の超一流トップを講師陣にお招きし、トップリーダーとして成長するための志や感性、教養などを学びました。また、講師陣やこれまでの修了生との意見交換会を行い、業種を超えたネットワークを築く貴重な機会となりました。

第2回目的の日帰りフォローアップ研修では、各自が設定した目標の振り返りを行い、トップリーダーになった自分の決意を全員の前で宣誓しました。

受講生の皆様が本研修で得たことを糧に、トップリーダーとして益々活躍されることを祈念いたします。



▲ 修了式の記念撮影



▲ 産学官トップリーダーの講義と対話
(梶山理事長兼学長)



▲ 講義をふまえたグループワーク

2018.11.30

ノーベル賞受賞者 野依良治先生 講演会を開催

福岡女子大学と九州大学では、高校生を主な対象とし、ノーベル賞を受賞された方々の講演会を不定期に開催しています。

第4回となる本講演会は、FFGホール(福岡市中央区)を会場に、2001年にノーベル化学賞を受賞された野依良治先生を講師としてお招きしました。先生の経歴や研究内容に加え、これからの社会についての提言等幅広い内容をお話しいただいた後、高校生5名との対談や会場からの質問もあり、盛況のうちに終了しました。



▲ 野依良治先生



▲ 野依先生と高校生の対談



▲ 野依先生と参加者の集合写真

2018.11.25

YOUTH FESTA HIGASHI 2018 (東区こども青少年文化祭)にてワークショップを開催

小中高生を対象とした様々な体験の場を提供するイベントである「YOUTH FESTA HIGASHI 2018(東区こども青少年文化祭)」がなみきスクエア(福岡市東区)で開催され、私たち「しょくぼねっとサークル」は、「食育かるた大会」と「野菜スタンプでオリジナルカード作り」というワークショップを行いました。「野菜食べ 体の調子 整えよう」などの読み札を使ったかるた大会では、子ども達はかるたに夢中になっており、楽しみながら食や健康について触れることができたと思います。

また、カード作りでは、オクラやレンコンなどの野菜の断面をスタンプとして使用しました。実際に野菜に触れたことで、普段食べている野菜にも興味を持つきっかけになると嬉しいです。イベントに参加することを通じて、子ども向けの企画の進め方や配慮について学ぶ機会をいただいたので、今後もより食育に向けて積極的に取り組んでいきたいと思っています。



食・健康学科 3年
杉本 栞優さん

「しょくぼねっと」とは食・健康学科の学生全員が参加する食育ボランティアサークルです。地域や商業施設で行われるイベント等での食育を中心に活動中。



▲ 食育かるた大会



▲ 野菜スタンプでオリジナルカード作り

2018.12.1

生涯学習カレッジ2018が終了

「福岡女子大学 生涯学習カレッジ2018」は、12月1日全13回のプログラムを終了しました。後半の「博多発祥の筑前琵琶」、「新能」、「雅楽の世界」の各回では「実演」を取り入れたプログラムを、「宗像大社—世界遺産を訪ねる」や「造り酒屋の伝統と革新」では「現地学習」を実施し、いずれも本物に触れる貴重な機会となりました。修了式では受講生より「感性」への刺激や気づきについて感想が述べられ、最後まで受講生の熱心さがうかがえました。



▲ 「博多発祥の筑前琵琶」



▲ 「宗像大社—世界遺産を訪ねる」



▲ 「修了式」修了証授与

International

2019.2.6

日本伝統文化「講談」を体験 神田紅氏講演会

福岡県出身の講談師、神田紅氏(日本講談協会会長)の講演会を2月6日に開催しました。これは本学のWJCプログラム(The World of Japanese Contemporary Culture Program)が日本を代表する著名人を講師に招いて実施する特別講義で、留学生の日本文化理解の促進を目的としています。神田紅氏は「芝居講談」という新ジャンルを開拓され、古典から現代ものまで幅広い作品を得意とされています。講演会では、古典講談「鉢の木」を題材に、江戸時代から伝わる「講談」の魅力を、実技も交えながら、わかりやすく解説していただきました。



▲ 神田 紅氏と留学生

2019.1

マヒドン大学(タイ)環境資源学部との学術連携

本学は、2016年にEUとASEAN地域の学術交流協定校8大学とConsortium for ASEAN-EU-Fukuoka Universities(CASEUF)(日本語名:ASEAN-EU域内大学コンソーシアム福岡)を設立し、国際的な研究・教育連携と人材交流を推進しています。研究の分野では、環境科学科の岩崎慎平准教授・豊貞佳奈子准教授・森田健教授が、ルーヴァン大学、ワルシャワ大学、ベトナム国家大学ハノイ校及びマヒドン大学の研究者と連携して、民生部門のエネルギーと水消費に関する研究を行っています。

マヒドン大学とは教育においても連携が進んでおり、環境資源学部との全面的協力を得て、岩崎准教授とマヒドン大学のPhutthai助教授の引率の下、共同調査の他にタイの環境活動を体験し学習する国際教育プログラムを1月に実施し、5名の本学学生が参加しました。



▲ マヒドン大学環境資源学部での記念写真

2018.12.12

派遣交換留学生の出発式を挙行

2019年春に交換留学に出発する15名の学生の出発式を2018年12月12日に執行了しました。式典では派遣学生達が1名ずつ出発に向けて決意表明のスピーチを行いました。交換留学では、派遣先大学において専門科目の履修が求められますが、英語で開講される科目の履修は容易ではありません。式の最後には、新開副学長より激励のメッセージが贈られ、派遣学生達は留学の出発に向けて一層気が引き締まったようでした。

私は2月からインドネシアのガジャマダ大学へ留学します。英語で開講される授業で国際関係について学び、語学学校でインドネシア語も勉強します。私の目標は英語教師になることですが、英語だけでなく、国際関係や文化についても教えることができる教師になれるよう、勉学に励んでいきたいです。イスラム教徒が多いインドネシアでの生活は、人生において貴重な経験になると思いますので、1年間を大切に過ごしていきたいと思っています。



国際教養学科 2年
井手口 茜さん

- ・マヒドン大学(タイ) 3名
- ・ルンド大学(スウェーデン) 2名
- ・ガジャマダ大学(インドネシア) 1名
- ・タマサート大学(タイ) 1名
- ・スベルマンカレッジ(米国) 1名
- ・ルーバン大学(ベルギー) 2名
- ・ワルシャワ大学(ポーランド) 1名
- ・東亜大学(韓国) 2名
- ・淡江大学(台湾) 1名
- ・同済大学(中国) 1名



▲ 派遣交換留学生と本学教員による記念撮影

Academic life

2018.11.29-12.9

「躍動する現代作家賞 2018」受賞

「第4回躍動する現代作家展」(福岡市のギャラリー・芸術空間TORAM主催、福岡県、福岡市、福岡市教育委員会、西日本新聞社後援)が、東京国立新美術館で開かれ、私の応募作品の油彩画が「躍動する現代作家賞2018」を受賞しました。

受賞作のタイトルは「Brown Study(黙考)」です。この作品は、私のニューヨーク個展(2015年)シリーズの1作です。この受賞を励みに大学院での「芸術表現における色彩の研究」を今後の創作活動に活かしたいと思います。

人間環境科学研究所(博士後期課程)
リ ジョンムン
李 延姮 さん (ARTIST NAME:MOON DOH)



▲ 受賞作「Brown Study」



2019.1

日本語教育能力検定試験に3名合格

2018年度「日本語教育能力検定試験」に、菊本恵子さん、友松香菜さん(以上、国際教養学科4年)、浅田恵子さん(同3年)の3名が合格しました。この試験は、日本語教師としての基礎的な知識・能力について審査する試験で、日本語に関する知識はもとより、国際関係や異文化理解、テスト理論など幅広い分野から出題されます。今後、外国人の受け入れ拡大に伴い、日本語教師の需要も高まってきます。これから更に、幅広い知識と視野をもった日本語教師を目指してほしいと思います。



▲ 左から浅田さん、友松さん、菊本さん

2019.2.11

インスタントラーメンオリジナル料理コンテスト入賞

2月11日に栄養士や調理師などの食のプロを目指す学生が対象の「第17回 インスタントラーメンオリジナル料理コンテスト2019」の決勝大会が行われました。当日は1,397通の応募の中から選ばれた12名が腕を競い、本学学生は、惜しくも優勝は逃したものの入賞を果たしました。



日本即席食品工業協会が主催するインスタントラーメンオリジナル料理コンテスト決勝大会に出場し「2分の1日分のカルシウムとビタミンDが同時に摂れる?!干し椎茸のロコモ予防ミルクラーメン」を作り、入賞しました。

ビタミンDの豊富な地元大分県産の干し椎茸はカルシウムの吸収を助けます。また、魚も鮭フレークとして手軽に取り入れることができ、鍋一つで簡単にできるレシピです。審査される状況での調理という貴重な経験をすることもできました。

食・健康学科 3年
尾崎 美友さん

2019.1.24

体験学習プログラム合同報告会を開催

2018年度開講された6つの体験学習プログラムの合同報告会が行われ、第1部の各プログラムのリレープレゼンテーションに続き、第2部では、プログラム受入先の担当者の皆さんが、体験学習を通じて培われる「感性」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

体験学習の各プログラムに関わる学生が一堂に会して、2018年度の活動やその成果をポスターとリレー形式のプレゼンテーションで発表しました。私はプログラム履修者として参加しましたが、他のプログラムでどのような活動をしていたかを知ることができました。学生による発表の後には、受け入れ団体代表の皆さんと和果先生によるパネルディスカッションが行われ、体験学習を通して学生が身につけた「感性」、身につけてほしい「感性」、リーダーに必要な「感性」について様々な意見をお聞きすることができました。普段、直接伺う機会がなかったことや、他団体による異なる視点からアプローチした「感性」について、考えを深めることができました。発表・パネルディスカッションを経て、自分たちの活動を客観視する良い機会が得られました。

国際教養学科 2年
村田 ももさん

Outreach

2018.11.30

本学学生が一日警察署長に就任

11月30日に環境科学科1年の山元玲奈さんが、九州産業大学の学生と共に福岡県警察東警察署の「一日警察署長」に任命されました。

九州産業大学の学生の方と一緒に、福岡県警察東警察署の「一日警察署長」に任命され、福岡県警察第一機動隊グラウンド(福岡市東区)で行われた「平成30年度東警察署年末年始特別警戒出動式」に参加し、整列した警察関係者や地域ボランティアの方々に前に、一日署長として激励のメッセージを送らせて頂きました。一日警察署長という大役を任されて、これまでより、より安全・安心の街づくりについて考えることが出来ました。

また、私たちの安全は警察の方やたくさんの地域のボランティアの方々のおかげで成り立っているのだと改めて実感しました。これから夜道での歩きスマホの危険性などを友達に伝え、自分自身の安全にも気を配ってきたいと思います。

環境科学科 1年 山元 玲奈さん



▲ 激励メッセージを送る様子 山元玲奈さん(右)



▲ 部隊視閲の様子



▲ 福岡県警察シンボル・マスコット「ふっけい君」と一緒に

2018.11.23

文化芸術推進事業 特別公開講座 しょうぶ学園 福森伸氏の講演会を開催

11月23日にアートマネジメント人材育成事業の一環として、障がいを持つ人たちが工芸・美術・音楽を中心に感性あふれる創作活動を行う、鹿児島県のしょうぶ学園 統括施設長 福森伸氏の講演会「[創造]×[想像] アートで福祉をソウゾウする」を開催しました。

「人と人がささえあい、つながりあい、つくりだすくらし」を創造してきた福森さんの深みのあるお話と福岡の障がい者福祉作業所 工房まるの樋口龍二さんの対談に、参加者からは多くの気づき、新たな価値観が与えられたとの声が聞かれました。



▲ しょうぶ学園 福森 伸氏

2019.2.16

「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」の成果発表会を開催

2月16日に社会人学び直しプログラム「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」の成果発表会を行いました。

モジュール1では、ファシリテーションを通じてチームでの協働を学び、モジュール2ではリサーチを通じて新たな機会を発見し、アイデアを創出するデザイン思考のプロセスを学びました。モジュール3では、受講生一人ひとりが抱える問題意識をテーマに、その問題を解決するためのプランを作るプロジェクトを実践しました。

全7チームの発表は多様なテーマが取り上げられ、ポスターを用いたフィードバックセッションでは実現に向けてのアドバイスが熱く繰り広げられていました。問題を見つけ解決していく力を養うこのプログラムも無事に第4期を修了することができました。

このプログラムの運営にご協力、ご尽力いただきました先生方、関係者の皆様に熱く御礼を申し上げます。



▲ 発表の様子



▲ 試作品説明



▲ ポスターセッション

INFORMATION

福岡女子大学 2019年度 公開講座

【お申込み・お問い合わせ】 福岡女子大学 地域連携センター
〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1-1-1
TEL:092-661-2728(直通)／092-661-2411(代表)
Fax:092-692-3220
E-mail:kyomenkow@fwu.ac.jp
URL:http://www.fwu.ac.jp/collaboration/

受講料:各回 500円 ※高校生無料

A 「暮らしにおける安心と安全」(会場:地域連携センター2階 セミナー室2)

もうご存知ですか? 暮らしに迫る危険から身を守りましょう。

講座番号	実施日	タイトル	概要	講師
A-1	6/22 (土) 10:00～11:30	PM2.5の脅威から 身を守るためには?	世界保健機関(WHO)の専門組織で「第一級発がん性物質」に分類され、近年中国の産業発展に伴い日本への飛来が懸念されているPM2.5(微小粒子状物質)について、健康への影響や個人ができる身の守り方について分かりやすく紹介します。	馬 昌珍 (環境科学科教授)
A-2	10/16 (水) 10:00～11:30	高齢者福祉施設で安心して 生活していくために —火災時の避難安全についての話を中心として—	私たちの終の棲家にもなりうる高齢者福祉施設において、近年凄惨な結果を招いている火災事例が多く発生しております。大切な家族が安心して生活していくことができる場所について、一緒に考えてみませんか?	若竹 雅宏 (環境科学科講師)

B 「知の発信2019 ～教養講座 知的好奇心へのいざない～」(会場:地域連携センター2階 セミナー室2)

国際教養学科の教員よりそれぞれの専門領域を一般の方向けに分かりやすく解説します。

受講料:各回 500円 ※高校生無料

講座番号	実施日	タイトル	概要	講師
B-1	7/27 (土) 10:00～11:30	歴史学の現在 フランス歴史学革命	常に歴史学の最先端をはしってきたフランス歴史学界に注目し、近代歴史学を特徴づける国家の歴史から、社会・民衆史を経て、グローバル・ヒストリー、感性の歴史へと至る、現在までの歴史学の変化を見通します。	藤原 翔太 (国際教養学科講師)
B-2	9/12 (木) 10:00～11:30	ショッピングの科学 — インストア・マーチャンダイジングとは —	私たちが何気なく行っているスーパーなどの店内には、消費者が思わず買ってしまうための様々な仕掛けがあります。ショッピングの科学について簡単にご紹介します。	櫻木 理江 (国際教養学科講師)

C 「自分メンテナンス!② ～健康な体を維持するために～」(会場:地域連携センター2階 セミナー室2)

栄養学の視点から、より健康な体を維持するコツを分かりやすく解説します。この機会に日々の食生活を振り返ってみませんか?

受講料:各回 500円 ※高校生無料

講座番号	実施日	タイトル	概要	講師
C-1	8/23 (金) 10:00～11:30	生活習慣病予防のための 食事	糖尿病などの生活習慣病と食事との関連についてのお話と、日頃どのような食事をとられているか簡単な調査を行いますので、ご自身の食生活の見直しにお役立てください。	南里 明子 (食・健康学科准教授)
C-2	2020年 2/6 (木) 10:30～12:00	脂質栄養と健康 ～私たちの健康と必須脂肪酸～	多くの種類がある油の特徴と健康に良い油についてご紹介します。特に今話題のn-3系脂肪酸(ω3系脂肪酸)について実際の研究を元に解説します。	中村 強 (食・健康学科教授) 丸石 優紀 (食・健康学科助手)

D 「『老い』とは何か ～文学・言語の観点から～」(会場:地域連携センター2階 セミナー室2)

教員3名が「老い」をキーワードに、それぞれの専門分野からアプローチします。

受講料:
2回シリーズ(D-1とD-2、D-3とD-4): 500円(2回分まとめて)
D-5: 500円
※高校生無料

講座番号	実施日	タイトル	概要	講師
D-1	10/5 (土) 10:00～11:30	詩歌における「老」の表現 ①	かつて四十歳を「初老」と称し、七十歳を「古稀」(古来稀なり)とした時代には、人々は「老」をどのように「発見」し、「自覚」して、己の「老のスタイル」を確立していったのか、古典文学の表現を辿ってみたいと思います。平均寿命の延びた現代人の感覚と比較すると面白いかもしれません。(2回シリーズ)	月野 文子 (国際教養学科教授)
D-2	10/12 (土) 10:00～11:30	詩歌における「老」の表現 ②		
D-3	10/26 (土) 10:00～11:30	「藤原定家 文学と人生」①	鎌倉時代の歌人・藤原定家の文学的業績とその人生をたどり、今日の時代をあらためて捉えなおすヒントを探る。安定していた価値観が大きく揺らぎ、一人一人がその生き方を鋭く問われた時代を生きた文学者の姿を再現します。(2回シリーズ)	今井 明 (国際教養学科教授)
D-4	11/2 (土) 10:00～11:30	「藤原定家 文学と人生」②		
D-5	11/30 (土) 10:00～11:30	日本語ボランティア —外国人に日本語のお手伝いを—	地域に住む外国人が増えています。少子高齢社会の日本では、労働力不足からさらに多くの外国からの働き手を迎えようとしています。様々な文化背景を持つ外国人とともに生きる社会で、人生経験豊かな方々の活躍が期待されています。	川邊 理恵 (共通教育機構講師)

E 「How to Learn English Effectively」(会場:図書館棟1階 LL教室6)

福岡女子大学の学部生1～2年生が履修する英語力習得のためのAcademic English Programを担当する専任講師による英語講座です。

受講料:1,000円(3回分まとめて)

【対象:TOEIC 400点以上もしくはそれと同等以上の英語力をお持ちの方】 定員: 30名 (先着順)

※高校生無料

講座番号	実施日	タイトル	概要	講師
E-1	11/9 (土) 10:00～11:30	English as a Global Language	English is often referred to as a global or world language. Approximately 350 million people around the world speak English as a first language and an estimated 450 million speak English as a second language. This lecture is specially designed for people wanting to build their English language competence and cross-cultural understanding through engaging and interactive content.	Andrew THOMPSON (AEP instructor・ 学術英語専任講師)
E-2	11/16 (土) 13:00～14:30	Self-assessment Strategies for Independent Learning	Lifelong learning requires its practitioners to understand their own skills in order to choose suitable learning goals. Participants in this workshop will learn self-assessment strategies as a tool to understand their skills and choose appropriate learning goals.	Scott SMITH (AEP instructor・ 学術英語専任講師)
E-3	11/23 (土・祝) 10:00～11:30	Learning English through News	In this 90-minute long session, participants will have a chance to learn how to use the news to improve their English skills. By reading the news related to both society and entertainment, participants will practice how to use their background knowledge to understand the content in English. Let's read together!	Dragana LAZIC (AEP instructor・ 学術英語専任講師)

「福岡女子大学100周年記念事業基金」 ご寄附の状況と寄附者様のご芳名紹介

福岡女子大学100周年記念事業の趣旨にご賛同いただき、多大な協力・ご支援を賜り、誠にありがとうございます。
平成30年10月1日から12月31日までにご寄附いただいた皆様のご芳名を掲載させていただきます。ご芳名のご公表を希望されない方は掲載していません。
今後とも福岡女子大学100周年記念事業への温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。
※本学ホームページにおいて、寄附開始以降、ご寄附いただいた皆様のご芳名を掲載しております。(ご公表を希望されない方を除く)

福岡女子大学100周年記念事業基金

ご寄附の状況 (2018年12月31日現在)

計	件数	寄附金額
	787件	49,304,000円

領収書について

平成30年10月1日から12月31日までにご寄附いただいた皆様には、平成31年1月中旬頃に「福岡女子大学 百周年記念事業基金寄附金領収書」を発送しております。また、ご寄附いただいた方で、領収書がまだ届いていない方は、お手数ですが、募金企画部会までご連絡いただきますようお願いいたします。
なお、平成30年1月1日から9月30日までにご寄附いただいた皆様には、平成30年11月上旬までに「福岡女子大学 百周年記念事業基金寄附金領収書」を発送しておりますが、紛失された場合は、募金企画部会へご相談ください。

福岡女子大学100周年記念事業基金(募金)

募金企画部会(学務部学生支援班)

〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1-1-1
Tel. 092-661-2418 Fax. 092-661-2415
Email 100th-bokin@fwu.ac.jp

問い合わせ先

寄附者ご芳名 (2018年10月1日～2018年12月31日)

お名前・寄附金額の掲載についてご了解いただいたご寄附者様 (寄附金額別、五十音順) ※カッコ内の数字は累計寄附金額です。

200万円	酒井 嘉子 様	5万円	重 富 美 紀 様	1万円	天 野 祥 子 様	1万円	檜 原 由 佳 様
100万円	上 村 元 子 様		白 石 幸 子 様		荒 川 美 冬 様		馬 場 広 希 様 (3万5千円)
	月 野 文 子 様		野 見 山 裕 子 様		井 上 喜 久 代 様		林 多 佳 子 様
	楽天カード株式会社 様	3万3千円	七 十 年 誌 座 談 会		岩 崎 愛 様		林 欣 子 様
50万円	高 木 俊 子 様		新 聞 部 O G ー 同 様		占 部 富 子 様		布 袋 絹 代 様
	矢 野 芙 美 子 様 (100万円)	3万円	九 州 市 民 大 学 様		香 月 妙 子 様		前 園 美 智 子 様
30万円	片 桐 義 範 様		清 澤 道 子 様		学 研 三 郎 マ ン ゴ ー 教 室 様		町 田 多 佳 子 様
	瀧 下 清 貴 様		(故)佐 多 京 子 様		叶 和 代 様		松 井 佐 和 子 様
20万円	芹 野 恵 子 様		鈴 木 幸 子 様		河 島 綾 乃 様		松 藤 裕 子 様
10万円	岩 崎 和 美 様		高 野 玲 子 様		久 保 山 悦 子 様		森 さ つ き 様
	折 口 い づ み 様		柳 淑 子 様		郡 司 紀 美 子 様		柳 瀬 留 美 様
	第11回被服学科一同 様		柳 橋 泰 生 様		三 小 田 智 子 様		吉 田 由 美 子 様
	松 永 直 子 様 (30万円)	2万円	壁 村 久 実 様		正 山 美 代 子 様	7千円	佐 藤 慶 子 様
7万円	奈 良 崎 八 千 代 様 (10万円)	1万1千円	坂 井 道 子 様		刀 根 真 理 子 様	2千円	近 藤 恵 子 様
5万円	郷 野 信 子 様	1万円	東 和 子 様		永 野 邦 子 様		

お名前だけの掲載についてご了解いただいたご寄附者様 (五十音順)

※カッコ内の数字は累計寄附回数(回目)です。

秋 山 文 子 様	小 倉 春 美 子 様	白 石 雅 子 様	永 嶋 和 子 様	速 水 和 子 様	村 井 典 子 様
浅 山 絹 子 様	小 野 佳 子 様	Pathmasiri JAYASENA 様	中 田 法 正 様 (3)	藤 田 美 奈 子 様	安 永 裕 美 様
井ノ口 美佐子 様	鐘 江 俊 江 様	角 文 代 様	中 溝 信 子 様	藤 本 侑 子 様	山 口 元 子 様
岩 切 真 弓 様 (2)	川 元 美 恵 子 様	陶 山 洋 子 様	鍋 嶋 美 里 様	藤 本 好 子 様	山 路 洋 子 様
江 見 好 子 様	小 辻 芳 子 様	尊 田 文 恵 様	西 村 祥 子 様	松 本 章 子 様 (2)	渡 邊 美 代 子 様
太 田 雅 規 様 (3)	柴 尾 祐 子 様	藤 多 恵 子 様	野 依 智 子 様	溝 部 順 子 様	渡 邊 俊 様
大 守 玲 子 様	柴 田 登 志 子 様	中 澤 治 子 様 (2)	林 直 子 様	宮 坂 正 子 様	

人事消息

退職(教員)

環境科学科 教授	藤 岡 祐 一	
国際教養学科 准教授	中 村 大 輔	2019.3.31付
環境科学科 助教	福 田 裕 美	

退職(職員)

学 務 部 学生支援班長	氷 室 悦 郎	2019.3.31付
経 営 管 理 部 財務管理班	福 田 い ず み	

退職者メッセージ

●基礎の大切さ

大学での基礎科学の講義は、現象を深く考えさせられ、環境エネルギー問題解決のヒントを得ることもありました。学生さん達も社会で難関に出会ったら、回り道ですが基礎知識の整理から開始されることをお勧めします。

環境科学科 教授 藤岡 祐一

●大変お世話になりました

百周年を目前に物惜しい心境ですが、学生、教職員、地域、行政の皆さまと教育・研究・地域活動を通じて様々な活動をご一緒いただき、深く感謝申しあげます。福岡女子大学の今後の益々の発展を心より祈念いたします。

国際教養学科 准教授 中村 大輔

●退職のあいさつ

このたび、助教としての任期満了につき退職することになりました。この10年間、母校で教育に携わり、博士号の取得や出産・育児などの面で皆様から多大なサポートを頂いたことを感謝しております。またどこかで皆様にお会いできる日を楽しみにしております。

環境科学科 助教 福田 裕美

●42分の3

県に奉職し42年、縁あって最後の3年間を福岡女子大学でお世話になりました。私の中では非常に内容が濃い3年間でした。支えていただいた職員の皆さんや先生方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

学務部 学生支援班長 氷室 悦郎